

一筆のほ場が狭い

機械化の導入条件は様々

8月1日から5日にか 案内で有識者と共に視察 大地といったイメージを らく中古だろうが日本車 けて、サブサハラ・アフリカ 抱いていたが、タンザニ が大半。交通量の増加で リカ地域有数のコメ生産 で紹介しているが、改め アの、特に農村部はどち スピード違反の取り締ま 国・タンザ 現場で見聞きしたこと らかという東南アジア りが厳しくなっていると ニアの灌漑 を振り返ってみる。

ほ場施設な 自身アフリカはプラ く小売店が並び活気やエ 大人が5人乗ったバイク ンをJICA イベントも含めて2度 ネルギーに満ち溢れてい が追い抜いていくのを見 Aチームの 目。砂漠や荒野が広がる た。道路を走る車はおそ ていると(違反だと思っ

タンザニア視察



レキタツ灌漑地区チェアマン



一筆10m×10mのほ場

が…)、日 景色を見ると、改めて日 本もこうし 本の支援や協力の成果や たアバウト 同国農業の可能性を感じ ながり各 地 ばと思っ ている。

今回は初日に訪問した アルシーヤ州のレキタツ 中では、今回はほ場面積に ついて話を広げてみたい。 018年同国農業省デー 見た。これから火をつ けるレンガの山があち ちこち用意されていた。 (佐藤記者)



未稼働の精米プラント(ムサ・ムインジャンガ灌漑地区)



もみ殻を使って焼きレンガを作っていた

ことが推察され、どの ような機械が有効か見 極めた上での提供が重 要と思う。実際にそう したほ場の横で日本ア ランドの耕うん機を使 った大区画化していた 箇所は参考になるので はないか。こうした場 所で試したい企業は是非AFICATまでお 問い合わせを。